



# そよ風



大阪市立大学  
医学部附属病院

発行/大阪市立大学医学部附属病院  
〒545-8586 大阪市阿倍野区旭町1丁目5番7号  
TEL 06-6645-2121  
http://www.hosp.med.osaka-cu.ac.jp/

2013年9月  
第19号



Smile! / Service! / Science! 笑顔の大学病院を目指しています

## 禁煙することを考えておられるあなたへ



はじめまして、大阪市大病院総合診療センターで禁煙外来を担当しております、小林正宜(こばやしまさのり)と申します。「禁煙する意志はあるけれど、なかなか禁煙できない

…」と悩んでおられる患者さん方に向けて、大阪市大病院では禁煙外来を開設しております。たばこの害は無数にありますが、なかでもその依存性の強さは、ヘロインやコカインといった麻薬よりも強いのです。その依存性の強さ故になかなか禁煙が達成できず、たくさんの方が悩んでおられます。実は私も2年前まで喫煙者でした。自分一人で何度も禁煙に挑戦しましたが、恥ずかしながら全て失敗しました。自分だけでは難しいと感じたので、禁煙外来に通院し、禁煙を達成しました。決して楽に禁煙できた訳ではありませんが、「禁煙しよう」という意志さえあ

れば、誰もが禁煙できると実感しました。そして、「禁煙ってこんなに素晴らしい！」と感じることが何度もあり、それを患者さん方に実感してもらいたいという思いで、禁煙外来を担当しています。「本当に禁煙できるの?」とっておられる方がたくさんいらっしゃると思いますが、当禁煙外来に3か月間通院された患者さんの約90%の方が禁煙を達成して

おられます。禁煙の意志がある方は、主治医の先生と相談し、是非当禁煙外来を受診してみてください。禁煙達成に向けて一緒に頑張りましょう!



### 理念

私たちは、医学部建学の精神である「智・仁・勇」に基づき市民の健康に寄与する質の高い医療を提供します。こころ豊かで信頼される医療人を育成します。医療の進歩にたゆまぬ努力を続けます。

### (大学病院のめざすところ) 基本方針

- ・患者本位の安全で質の高い医療を提供します
- ・地域医療の向上に寄与します
- ・健康・予防医学を推進します
- ・最新の高度医療を提供します
- ・人間味豊かな優れた医療人を育成します
- ・新しい診断法・治療法・予防医学の開発を行います
- ・質の高い多彩な研究を推進します

## 骨盤のゆるみを治しましょう

女性診療科 産科・生殖内分泌・骨盤底医学 古山将康  
日本では超高齢化がすすみ、高齢化に伴う女性の悩みも増えています。男性と異なり、女性は妊娠、分娩という大切なイベントを経験します。分娩では10センチの直径をもつ赤ちゃんが子宮から腔を通して生まれてきます。そのために骨盤の底にある泌尿器(膀胱や尿道)、下部消化管(直腸、肛門)に影響を及ぼします。結果として子宮が下がる、尿が漏れる、尿が出ない、便が漏れるなどいろいろな症状がでます。これは分娩による骨盤の靭帯や筋肉のゆるみが原因とされています。骨盤底臓器の機能障害は



女性診療科 骨盤底医学のスタッフ

高齢女性の生活の質(クオリティー・オブ・ライフ、QOL)を落とし、豊かな老後の生活を著しく損ないます。高齢者の約1割の患者さんが悩まれていると考えられています。当科ではこれらの骨盤底臓器の機能回復を目的とした治療を行います。排尿や排便、性機能の悩みですからどうしても相談しにくい悩みですが、私たちはこれらの疾病に対して産婦人科を窓口として産婦人科医、泌尿器科医、外科医、看護師、ソーシャルワーカーなどの専門家によって細やかで迅速な対応を行う診療科を目指してまいります。機能回復のための体操指導、器具の装着、適切な手術などを提供しています。是非ご相談ください。お待ちしております。

骨盤底を持ち上げるペッサリー器具



骨盤底を持ち上げるペッサリー器具

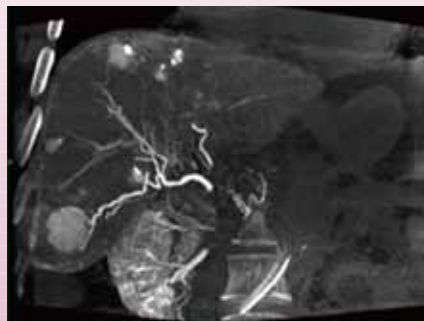


骨盤臓器脱に対するメッシュを用いた矯正手術

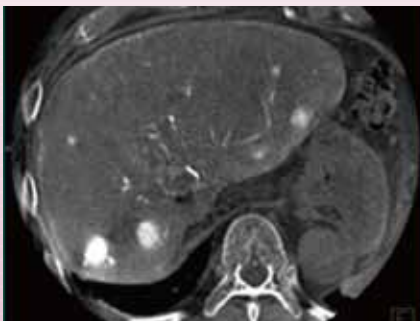
## 最新! 血管造影装置の導入

中央放射線部 市田隆雄  
脳血管・腹部血管専用の新しい血管造影装置が導入されました。現在の放射線技術において最高位、最新鋭の装備がされています。血管造影ではカテーテルという管を血管に挿入し目的部位まで進めて、造影剤というお薬を流してX線撮影をします。血管造影像上、血管の太い、細い、病変部を栄養している血管などが描出されます。そのもと動脈瘤の塞栓、狭窄部の拡張、病変部への抗がん剤注入などの治療(血管内手術)がされます。今回の装置でいっそうきめ細やかな治

療ができるようになりました。この装置の特徴は、少ないX線量できれいな画像が得られるため被ばく線量が減ります。また正面と側面を同時に撮影できるため造影剤の使用量も減ります。きれいな画像のもとでスムーズに手技ができることでは時間短縮にもつながります。患者さんへの負担を総合的に減じる良好な装置です。そして最大の武器は、特殊撮影機能のもとCTライク像(CTのような画像)や3D画像(立体像)が得られることです。私たち診療放射線技師は、このような装置を活用しながら医師・看護師と協力して安全な医療提供ができるように日々努力をしています。ところで昨今、放射線についての関心が高まっています。被ばくの心配事ありましたら気軽にご相談ください。



腹部(肝動脈と腫瘍)でのCTライク像



頭部(内頸動脈)3D画像



最新装置



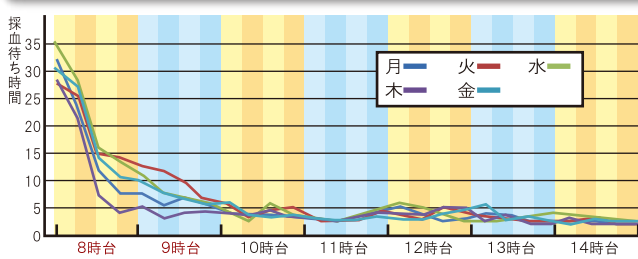
# 中央臨床検査部 採血室の取り組みと患者さんへのお願い

## 採血室の待ち時間短縮の取り組み

以前は採血開始と同時に、多くの患者さんが採血に来られ、70~80人近く(待ち時間は約1時間)お待ちになっている状況が日常的に繰り返されていました。

取り組み内容は、平成24年度に採血台を14台に増設し、待ち時間を最長約40分に短縮しました。平成25年度は『採血室待ち時間30分以内』を目標に掲げ、全員で採血業務改善と採血教育を行い、また採血開始時間を8時45分から8時30分へ、さらに混雑時に採血スタッフを臨時増員しました。その結果、待ち時間最大は約30分になり、多くの患者さんに喜ばれています。

## 曜日別・時間帯別採血待ち時間(2013年7月)



採血室は9時頃まで大変混雑します。木曜日が比較的空いています。グラフを参考に空いている時間のご利用をおすすめします。

## 患者誤認防止の取り組み

患者誤認防止のためバーコードによる認証も行っています。



採血風景(バーコード認証)

## 患者さんと共に病気に立ち向かう「同種造血幹細胞移植サポートチーム」



同種造血幹細胞移植とは、白血病など血液のがんに対して、血液を造る元になる造血幹細胞をドナーからもらって治療困難な病気を治すことができる高度な治療法で、骨髄、末梢血、臍帯血の3つの方法があります。市大病院の血液内科・造血細胞移植科では、2013年6月末までに423件の同種造血幹細胞移植を行ってきました。造血幹細胞移植は血液のがんを治し、命を救う強い力がありますが、その反面、ドナーの細胞によって攻撃を受けるGVHDや感染症など命に関わる合併症に加え、退院後の生活の質(QOL)を下げってしまうような多くの合併症があり、患者さんにとって必ずしも優しい医療とは言えません。私たちは、リハビリテーション(ゲームを使って楽しく)、栄養(一日三食しっかり食事)、口腔ケア(ストップ・ザ・口内炎)をはじめとしたトータルサポートにより移植後、元気に退院できるように、医師や看護師だけではなく、移植に関わる多職種(理学療法士、栄養士、移植コーディネーター、薬剤師、臨床検査技師、臨床工学技士、放射線技師、緩和ケアチーム、ソーシャルワーカーなど全ての職種)が「移植サポートチーム」の一員として、それぞれの高い専門性を発揮しながら協力し、「患者さんの希望を叶える移植」の実現を目指しています。



移植病棟に任天堂ゲーム機「WiiFit」理学療法士らの立会いのもと、移植前からリハビリを行っています。ゲーム性を取り入れリハビリを続けてくれる患者さんが増えています。

移植病棟に任天堂ゲーム機「WiiFit」理学療法士らの立会いのもと、移植前からリハビリを行っています。ゲーム性を取り入れリハビリを続けてくれる患者さんが増えています。



口腔ケア指導

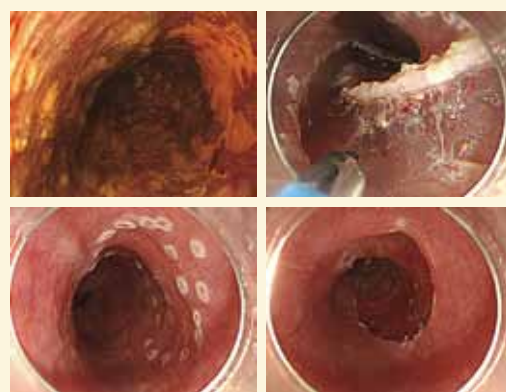


病棟カンファレンス

## 早期の食道癌の内視鏡治療

内視鏡機器の進歩に伴い、食道癌は早期に発見されるようになってきました。しかし、食道の壁の内と周囲にはリンパ管や血管が豊富なため、食道癌は他の消化管癌と比べて早期から転移を起こしやすいという特徴があります。癌が進行した場合や、リンパ節や他の臓器に転移をきたした場合には、外科手術あるいは放射線・化学療法などによる治療が必要となります。その一方で、周辺リンパ節や他の臓器への転移がなく、局所に限局している場合には内視鏡による切除治療が可能となります。

消化器内科では、早期の食道癌に対する内視鏡治療として内視鏡的食道粘膜下層剥離術(ESD)を行っています。内視鏡下に電気メスを使用して病変を一括で切除する治療法で、切除した組織を顕微鏡を用いて詳細に検討することで、食道癌の深さや転移のしやすさ等をより正確に診断し、治療の根治度や追加治療の必要性を検討することが可能となるわけです。



2008年に保険収載されて以来、当院での治療件数も年々増加し、現在では年間約70例の内視鏡治療を行っており、その治療成績も良好なものと認識しています。内視鏡治療は、その他の治療に比べてはるかに低侵襲なものです。入院期間も約1週間と短期間であり、通常治療後4日後から食事を開始し、7日後には退院が可能となります。早期の食道癌と診断された患者さん、食道癌について気になる患者さんは、消化器内科外来まで一度ご相談ください。



## 診療科紹介 脳神経外科

脳神経外科では、脳や脊髄脊椎の疾患を対象として診療を行っており、年間に約400件の手術を行っております。高度な手術治療技術が最大の特徴であり、手術が最も難しいとされる頭蓋底の腫瘍に対して多数の患者さんを治療し、神経の障害をきたすことなく完全切除することを目的としています。悪性腫瘍の手術後は、最新の化学療法や放射線治療も行っています。脊髄腫瘍、脊椎変性疾患、頭蓋頸椎移行部疾患などの特に難易度の高い疾患も日本脊髄外科学会訓練施設として多数治療しています。脳動脈瘤や脳動静脈奇形などの血管性病変に対しては、手術以外にも患者さんにとって体への負担が少ない血管内治療を積極的に取り入れており、良好な結果が得られています。切らずに治す定位放射線治療も行っており、高齢者や全身状態の良くない患者さんも安全に治療することが可能です。

手術前には、PET検査、脳磁図(MEG)、機能MRIなどを用いて脳機能の存在部位を明らかにし、手術中は、ナビゲーションシステム、術中蛍光診断装置、神経生理モニタリングなど最新の機器による手術支援システムを用いながら、覚醒下手術や内視鏡手術など高度な技術をもって安全性を追求した治療を行っています。



脳外科手術の様子



カンファレンスの様子

## 循環器内科学教室の取り組み

私たちの教室の理念は、循環器病学の研究、医療、教育に精進することにより、自己の医師としての成長を図り、患者さんのためにつくすことです。この理念の元に日々活動しています。急性心筋梗塞や狭心症などの冠動脈疾患に対してのインターベンション治療、心房細動などの不整脈に対するアブレーション治療などを心臓カテーテル室で行っています。また心臓血管集中治療室では、急性冠症候群の治療や重症心不全に対しては薬物、非薬物療法を行っています。来年は心カテ室がバイブレインやハイブリッド治療室の導入により、冠動脈疾患だけでなく、弁膜症、先天性心疾患、大動脈疾患、肺動脈血栓症も積極的に治療できます。近い将来に、心臓外科と協力して埋め込み型人工心臓の治療もしたいと思っています。新たな治療として急性心筋梗塞にIL-11を使っての世界初の心筋保護治療もしています。また、近くの開業されている先生方と連携してより地域医療にも貢献したいと思っています。特に来春からは心カテ室の充実も計画されています。さらに多くの患者さんを救命できると期待しています。地域医療の充実、世界標準医療の実践、そして大阪市大から世界に向けての医療の発信をしたいと思っています。どうか、よろしくご支援お願いいたします。



循環器病棟回診



心臓血管病カンファレンス